

分科会 11

精神疾患があっても結婚したい！ 結婚できる？

～婚活当事者の障害者と結婚相談所担当者が語る！

松本謙太郎（フリーライター・作家・婚活当事者）
影山頼央（特定非営利活動法人結婚相談 NPO 理事長）
中林能昭（会社員・婚活当事者）

分科会 11 では『精神疾患があっても結婚したい！ 結婚できる？ 婚活当事者の障害者と結婚相談所担当者が語ります！』というテーマで、これまであまり表だって語られることがなかった精神疾患の方の結婚や婚活について、参加者の意見を交えながら討論を行った。

最初にパネリストがそれぞれの立場から、精神疾患の場合の婚活や結婚願望について、およびそれをサポートする社会的システムについて報告があった。結婚したいというニーズや結婚することの社会的な意味など認められるものの、現実の「婚活」ではなかなかそれが難しい面も明らかになった（収入面や当事者の希望等）。

その後、参加者からの質問や意見に答える形でフリーディスカッションに入った。「出会いがない」という意見が多いかと思われたが、作業所や施設などで結婚した当事者からの発言もあり、必ずしも希望がないわけではないということが確かな事例を持って示された。

一方で、「婚活」というシステムではなかなかカバーできないこと（精神疾患に対応できるスタッフが少ない、いない）、需要と供給のアンバランス、既存の精神疾患ではない部分でのケア（性同一性障害など『LGBT』に関わる部分）の必要性など、パネリストがこれまであまり意識してこなかった部分について、当事者からの意見で気付かされる場面もあった。

精神疾患を持つ方の親や支援者からの発言もあり、そうした当事者以外の方を側面的にサポートして婚活や結婚につなげていく必要性を感じた。

総じて、最後まで発言が途絶えることなく続き、ディスカッション形式での本分科会は成功裏に終わり、新しい課題などを発見することができた。

《松本謙太郎（フリーライター・作家・婚活当事者）》